

令和4年 大館市の10大ニュース

順位	項目	説明
1	8月3日からの大雨による災害	8月3日からの記録的な大雨により、下内川の決壊等による住家の浸水などの被害が152世帯に及んだほか、道路・河川・農地等の被害は1,000箇所を超え、被害額は約33.4億円にのぼるなど、市内に甚大な被害をもたらした激甚災害に指定された。市では、被災された方々に対して災害見舞金の支給や災害ごみの無料回収、固定資産税等の減免等を実施し、経済的負担の軽減を図ったほか、国の災害復旧事業等により、一日も早い復旧に向けて取り組んでいる。
2	渋谷区・大館市交流促進協定の締結	令和5年の忠犬ハチ公生誕100年に向け、「観光」「産業」「文化」「スポーツ」等を通じて、渋谷区との交流をよりいっそう深め、両地域の活性化に寄与するため、協定を締結した。
3	屋内施設「子どもの遊び場」がオープン	ニプロハチ公ドームパークセンターを改修し、天候に左右されない屋内施設として「子どもの遊び場」を12月22日にオープンした。子育て世代のニーズに合わせ土日にも開館するとともに、木のおもちゃを配置するなど、安心して子育てできる環境を整備した。
4	大館版mobiプロジェクトの実証運行の開始	あらゆる人の移動環境に対応し、社会参加しやすい共生社会の実現に向けた取り組みとして、AIを活用した新たな交通サービス「大館版mobiプロジェクト」が国の共創モデル実証プロジェクトに採択され、10月1日から実証運行が始まった。今後、実証運行から得られるデータを分析評価し、本格運行を目指す。
5	大館市道路等包括的民間委託がスタート	インフラの老朽化や土木技術者の減少など、インフラの維持管理に関する課題に対応するため、従来の仕組みや制度を改善・変革し、民間事業者の創意工夫やノウハウを用いた「大館市道路等包括的民間委託」がスタートした。 ・対象範囲：比内地域及び十二所地区 ・試行実施期間：令和4年12月から令和6年3月までの1年4カ月の期間 ・受任者：大館東地区道路等包括管理業務委託共同企業体
6	「大館学び大学」グランドオープン	4月に大館学び大学をグランドオープンした。7月にはグランドオープンの記念イベントとして「大館学び大学 オープンキャンパスフェス2022」を開催し、市民や企業向けにミニ講座やトークイベント、物品販売を行った。主催するオリジナル講座のうち、地域に関連した学科では周辺市町との連携を深め、地元食材を生かした新しいメニュー開発などの活動を始めたほか、大館教育ツーリズムの学校紹介サイトの公開を目指し活動中である。
7	林業成長産業化の取り組みがプラチナ大賞「優秀賞・林業再生賞」など三賞を受賞	本市の林業成長産業化の取り組みが高く評価され、優れた地域課題解決の取り組みを顕彰する「第10回プラチナ大賞」において、県内自治体初となる「優秀賞・林業再生賞」を受賞するとともに、「プラチナシティ」の認定を受けたほか、一般社団法人ウッドデザイン協会の「ウッドデザイン賞2022」を受賞、東北農政局からは「ディスカバー農山漁村の宝」に選定された。
8	マイナンバーカードの5月交付数伸び率が全国（市区）1位、交付率5割突破	4月にニプロハチ公ドームで行った新型コロナウイルスワクチン接種会場で、マイナンバーカード出張窓口を開設したところ、2日間で約1,000人もの交付申請があった。その結果、5月中のカード交付数伸び率が全国市区で1位となり、国からモデル事例として全国自治体に紹介された。交付率は、昨年12月末の37.13%から今年10月末には5割を超え、11月末時点で54.54%となっている。
9	新型コロナウイルス感染症対策を引き続き実施	新型コロナウイルス感染症対策として、令和4年は次のとおり実施した。 ①感染拡大を防止し、地域経済や住民生活の支援などの地域の実情に応じてきめ細やかに事業を実施するため、国から約9億7,400万円の予算配分を受け、木材サプライチェーン強靱化事業、プレミアム付商品券事業、農業カーボンニュートラル推進事業、比内地鶏導入支援事業、大館の食タクシー事業、特産品送料助成事業、大館能代空港利用促進キャンペーン事業などの経済対策を切れ目なく行った。 ②新型コロナウイルス感染症の第7波に伴い感染者が急増する中、市民の感染症への不安や相談をワンストップで受けるため、8月に「おおだて新型コロナウイルス相談センター」を市役所本庁舎内に開設した。延べ305人の職員による全庁体制で、約1カ月間で2,607件の電話相談に対応した。 ③1月からの新型コロナウイルス感染症の第6波以降、県の病床確保計画の最高フェーズが継続する中、総合病院は、重点医療機関として15～21床を確保し、医療圏内外からの感染症患者受け入れの役割を果たすとともに、地域の2次・救急医療の維持に努めた。 ④新型コロナウイルス感染症の第7波に伴い、市民や帰省客からの受診要望に応えるため、総合病院・扇田病院に「臨時発熱外来」を開設し、8月6日から31日までの26日間で、両院合わせて995人が受診した。  一方、ウイズコロナを見据え、感染防止対策を行った上で、大館大文字まつりや本場大館きりたんぽ祭りを3年ぶりに、大館圏域産業祭を4年ぶりに開催し、市内外の多くの方々にお越しいただいた。
10	物価高騰対策を実施	コロナ禍において原油価格や物価高騰に直面する生活者の家計負担の軽減と、地域内消費の喚起による事業者の支援を目的として、市民1人当たり5,000円の商品券を約31,500世帯（約68,500人分）に配布した。また、農業者や中小事業者を対象として各種支援策を実施した。農業者に対しては、電動農機具、高耐久ビニールハウスへの転換、比内地鶏素雛等の導入費用や肥料価格上昇分への支援を行った。中小事業者に対しては、カーボンニュートラルの実現に向け、よりエネルギー効率の良い設備への更新等を支援したほか、物流事業者に対し、走行距離数、所持車両の種類に応じて助成金を交付した。